

## さぬき浜街道

さぬき浜街道は、瀬戸大橋のアクセス道路及び香川県の広域幹線道路網の一環として、高松市と中讃・西讃地域の臨海部を結ぶ 62.3km の県道及び市町道を総称したものです。

さぬき浜街道はもともと臨海産業道路と呼ばれていました。昭和 37 年に全国総合開発計画が策定された頃から、企業誘致を前提とした地域開発計画が全国的に活発になり、香川県でも番の州埋立てをはじめとする臨海部の埋立てによる工業地帯の開発が行われるようになりました。また、中讃地域に集中していた塩田が昭和 46 年に廃止され、その活用を図るためにも臨海部の開発が検討されることになりました。臨海部の開発を促進するために道路が計画されましたが、臨海産業道路は当初は広域幹線道路網の一環として位置づけられたものではありませんでした。高松地区や中讃地区が別々に開発する構想を持っていたため、臨海産業道路は昭和 42 年度から香川県や各市町により、道路事業、街路事業、土地区画整理事業、有料道路事業など各種事業を組み合わせる整備が進められました。

ところが、昭和 53 年に着工した瀬戸大橋の完成を控え、臨海産業道路に瀬戸大橋のアクセス道路としての機能が付与されるとともに、臨海産業道路の早期完成の必要性が認識されるようになりました。このため、臨海産業道路は坂出北インターで瀬戸大橋と接続され、東の高松市から、西の詫間町（現三豊市）までの臨海部 40.8km を結ぶ広域幹線道路の一環として整備されることになりました。このうち、高松～多度津間 34.3km が第 1 期計画として、瀬戸大橋開通の昭和 63 年を目標に優先整備され、昭和 63 年 11 月に暫定 2 車線以上で全線が開通しました。これに合わせてルートの愛称が一般公募され、香川県道づくり懇談会の提言を受けて、昭和 63 年 8 月に臨海産業道路は「さぬき浜街道」と命名されました。その後、さぬき浜街道の区間は高松市から観音寺市間の 62.3km に延長され、多度津町から観音寺市に至る区間の整備が進められています。

さぬき浜街道には、その一部として、かつて香川県道路公社が建設・管理した高松坂出有料道路がありました。五色台トンネル（延長 1,437m）を含む高松市植松町～坂出市林田町間 10.1km の路線で、有料道路方式で整備され、昭和 48 年に着工、昭和 56 年に竣工しました。高松坂出有料道路は、完成から 30 年後の平成 23 年に、高松市や坂出市の強い要望もあり、無料開放されました。

さぬき浜街道は瀬戸大橋のアクセス道路及び広域幹線道路として産業、生活、観光などさまざまな面で活用され、香川県の発展に貢献しています。

<参考文献：香川県土木史編纂委員会編「香川県土木史第Ⅱ巻」2004 年、高松百年史編集室編「高松百年史下巻」1989 年、坂出市史編さん所編「坂出市史 通史下現代篇」2020 年など>

